



【21】 消化器内科学講座 教授 澁川 悟朗

『胃カメラ 受けるべき？』

上 部消化管内視鏡検査、いわゆる“胃カメラ”は、のぞえなどで受けるのが大変な印象があると思います。なので、検査を行う私たちも、皆さんにできるだけ楽に検査を受けてもらえるよう、日々努力をしています。検査後に「今までで一番楽だった。」と患者さんから言われると、心の中で『よっしゃー！』と喜んでいます。しかし、「これまでで一番辛かった。」と言われると心の中で『トホホ。』と落ち込んで、もっと上手に受けしてもらえるよう精進せねばと反省しているのです。

そんなに大変な胃カメラをなぜ受ける必要があるのか？まず、胃痛などの症状があれば、原因を調べて適切な治療を選択するために胃カメラを受ける必要があります。また、症状がなくても、病気の、特に胃がんの早期発見のためには胃カメラが必要です。とはいっても、やみくもに全員が毎年胃カメラを受ける必要はありません。しかし、胃がんのリスクが高いヘリコバクター・ピロリ菌に感染している方は、毎年胃カメラを受けるのが望ましいです。毎年胃カメラを受けることで、胃カメラでの切除が可能な早期の段階で胃がんを発見できます。同時に、胃カメラでピロリ菌の感染も分かるため、除菌療法によって胃がん発生のリスクを減らすこともできます。

現在、胃がんは男性で2番目、女性で4番目に多い死因です。胃がん検診で胃がんの発見が可能となりますが、会津若松市の胃がん検診受診率は低く、17%程度です。50代の方でも4割以上の方はピロリ菌に感染していると考えられているため、胃がんのリスクが高いけれど胃カメラを受けていない方がたくさんいるように感じます。きちんと胃カメラを受けることで胃がんの早期発見や、ピロリ菌の除菌による胃がん予防ができますので、是非胃がん検診などを利用して胃カメラを受けてみてください。

当院では、胃カメラを受けている間に看護師さんが背中をさすってくれますが、そうするとのぞえが減って検査が楽だと好評です。のぞえなどで胃カメラが苦手な人は鎮静剤で眠りながら検査を受けることも可能です。